

# 2013年 岩手県・宮城県リトルリーグ野球親善交流大会 大会規則

## I 大会規則

2013リトルリーグ公認規定と競技規則、及び本大会規則を適用する。

## II 登録及び義務

### 1. 選手登録

1) 人数 登録選手数は9名以上20名以内とする。

### 2. 監督及びコーチ

1) 監督 1名

2) コーチ 2名まで

3) 監督、コーチは成人の者に限る。

4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。

## III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニフォームの胸に明確にリーグ名の表示のある物に限る。

なお、白色のアンダーシャツは認めない。

2. 監督及びコーチの上着は襟付きの白、ズボンは白又はグレーで統一したものを着用する。

3. 監督及びコーチの帽子は、選手と同じ物又は白で統一したものを着用する。

## IV 用具

1. 非木製のバットでBPF(バット性能指数)1.15の印字表記のないものは使用できない。

2. 瑕疵、変形等があるバットの使用の可否については審判が安全上の問題を最優先に判断をする。

3. 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット(耳カバー付)、プロテクター(ロングタイプ)、マスク、スロートガード(のどあて)及びカップを着用する。

4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。

5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。但し、投手が投球する時はこれを認めない。

6. サングラスの使用は、選手のプレーに必要なときは認める。監督、コーチの使用は禁止するが、大会本部が許可した場合はこの限りではない。

7. ヘルメットのあごひもを着用すること。

8. グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。

9. 出場選手は安全確保のため、胸部保護パッドを着用すること。

## V 試合の準備

1. ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。

2. 攻守は主将により、試合当日決定とする。

3. シートノックは後攻より5分間とするが、都合により短縮及びカットする場合もある。

4. 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

## VI 試合の運営

1. 本大会はトーナメント方式とする。1時間20分制もしくは6回までとし、同点の場合は抽選とする。  
**準決勝・決勝戦も同様。**
2. 全試合、点差によるコールドゲームを適用し、4回以降7点差とする。(準決勝・決勝戦も含む)
3. ベースコーチに指導者(監督・コーチ)を1人認める。
  - 1) 一塁・三塁どちらのコーチスボックスでも良い。
  - 2) 同一イニング中はコーチスボックスの移動はできない。
  - 3) 同一イニング中はコーチスボックス内の指導者の変更は認めない。
  - 4) 指導者がコーチスボックスに入らなくても良い。なお、イニングの途中の出入りは認めない。
  - 5) 任務
    - \* 打者及び走者への指示に限る。
    - \* コーチスボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムに数える。
  - 6) ペナルティー
    - \* 選手に対し、威圧的な言動があった場合、1回目はベンチに戻す。
    - \* 当該者は、その試合中コーチスボックスに入れない。
    - \* 2回目は監督の退場となる。
4. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることは出来ない。
5. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニングに1回である。  
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督及びコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。  
但し、守備側の指示より長い時間は認めない。
6. 監督及びコーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このとき捕手及び内野手が集合しても良い。監督・コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
7. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。但し、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めないことがある。
8. 投手のウォームアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
9. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。  
もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。同様の行為を再度審判員がみつけた時は、当該リーグの監督を退場させる。

10. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
11. ベースコーチなどが、打者走者(走者)の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールする行為を禁止する。
12. 臨時代走
  - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。  
なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
  - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。
  - 3) 頭部に投球及び送球を受けたときは必ず臨時代走を出すこと。
13. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトとなり、ボールデットになる。  
但し、帰塁時のヘッドスライディングは認める。
14. 不正投球が発生したときは走者を進塁させず、投球しない場合でもボールを宣告し、投球数に加算する。
15. 一試合に起用する投手の数は制限しない。
16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は、選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

## **VII 監督、コーチ、選手の退場**

1. 次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。
  - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し、暴力及び暴言があった場合、監督及び当該者を退場させる。
  - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

## **VIII スピードアップ**

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に返球する。
6. 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

## IX 補 則

1. ベンチ内のプレーについて
  - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りとする。
  - 2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からハーフスイングのリクエストを受け付ける。
3. 全野手がファウルラインを超えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合はボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
5. ネクストバッターサークルは作らない。次打者はベンチの出入口付近に待機する。
6. 監督、コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしない。
8. 選手はユニフォームをきちんと着用すること。

## X 特 記 事 項

1. 「全員出場の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。
2. 「投手の規則」
  - 1) 降板した投手は、その試合では投手に戻れない。
  - 2) 投球制限をする。1日の投球数は、小学校6年生は85球とする。小学校5年生以下は75球とする。  
試合に登板した投手は次の試合には投球できない。(休息試合を設ける。)  
ただし、20球以内の投球数であれば、85球を限度に当日の第2試合に登板できる。
  - 3) 試合で41球以上の投球を行なった投手は、その日捕手を務めてはならない。
  - 4) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日投手を務めてはならない。
3. 「球場内の練習・応援注意事項」
  - 1) 試合前の練習はフリーバッティング、トスバッティング、ノック等、バットにボールを当てる行為を禁止する。  
(外野・敷地内全て。選手のケガ防止。アップの場所である。)  
ただし、素振り・キャッチボール等の使用を認める。
  - 2) バッグネット裏・ベンチ裏・外野での撮影・応援は全て禁止とする。(カメラのみの設置含む。)
  - 3) ベンチ入り後は一切ベンチの外に出られない。やむを得ない場合は大会本部の許可を得て出ることとする。  
許可無くベンチを出た場合は、その時点でベンチに入れない。(指導部・選手)

